

特集

フレンズ機関紙60号を迎える

最初はワープロに切り貼り 苦勞したパソコンへの移行

1998年11月1日に第1号を発行してから今号で60号となりました。記念として今までの歩みの特集します。(2面も続く)

始まり

文化の家は1998年7月に開館し様々な公演が催されてきましたが、最初のころは評判が良い割に満席になつたことは数えるほどで「もっとと宣伝をしなきゃ」「もっとと情報がほしいね」というフレンズ役員の熱い思いから機関紙の作成が始まりました。

しかし初めは素人集団の悲しさ。情報の要点をまとめることの難しさや、慣れないワープロに悪戦苦闘。やっとの思いで1号の発行にこぎつけました。

文化の家の広報の支えに

そのころは文化の家の情報発信が少なかつたので、機関紙は文化の家の広報を

支える役目を果たして、初めの2年程は、文化の家の催し物のお知らせや、出演者の情報などがメインでした。

文化の家の情報発信が充実してくると、徐々にフレンズの会員に向けての情報の発信や独自の企画記事に重きを置くようになり、今日に至ります。

紙面づくり

最初はワープロで入力し、写真やイラストは切り貼りをしていました。

パソコンを導入したのは2000年発行の8号からです。国内でパソコンが急速に普及したこのころは、フレンズでも機関紙部企画のパソコン教室が開かれ多くのフレンズスタッフが参加しました。

そのころのパソコンは写真を出力するのにも相当時間がかかるため、しばらくは写真やイラストの切り貼りが続き、ワープロから移行のこの時期が一番大変でした。そして、今のようにすべてパソコンで作成できるようになったのは14号からです。

これから

多くの人の努力をつなぎながら60号まで発行することができました。これからも少しずつ進化させ、興味を持って読んでいただける魅力的な機関紙を70号80号そして100号へとつなげ皆さんにお届けしたいと思います。



記念すべき第1号の1面